

だより

— つながれ ひろがれー

第146号 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel: 090-8116-4633

E-mail: info@kanpachiba.com https://kanpachiba.com/

SDGs·ESD 公開フォーラム開催報告

SDGs・ESDへの取り組みを多様な主体と協働してさらにひろげるため、2022年度の『SDGs・ESD をひろげるための"ちば"北拠点づくり事業』のスタートとして、SDGs・ESD 公開フォーラム『みんなでつながる地域拠点を創ろう』を7月3日(日)に、さわやかちば県民プラザ(柏市)で開催しました。会場21人、オンライン21人の方に参加いただきました。

フォーラムの趣旨説明をした後、SDGs を身近に感じていただくために、「活動」を通してSDGs・ESD を実践されている具体的事例を4つの団体・企業から紹介していただきました。

1) NPO法人 谷田武西(やたむざい) の原っぱと森の会 理事長 矢野眞理さん

『白井市と印西市にまたがる開発されずに残った25haの"原っぱと森"の保全・調査活動と環境学習を実施』

2) 柏市ストップ温暖化サポーター 代表 山田殖保さん

『2050年脱炭素ゼロ実現に向け、市民に向けた様々な温暖化防止の啓発活動を行政と協働で実施』

3) NPO法人 持続可能な社会をつくる元気 ネット 理事長 鬼沢良子さん

『3R普及と市民リーダー育成のため"情報を伝え、関心を持ってもらい、実践につなげる活動"を行政と連携して実施』

4) キッコーマン株式会社 環境部 浅井祥二さん 『江戸時代に創業した企業の経営理念を基に、 社会課題を 地球環境・食と健康・人と社会 の 3 分野から解決する SDGs 活動を実施』



続いて、神田外語大学グローバル・リベラル アーツ学部 教授 石井雅章さんから、『SDGs・ ESD を"つなげて"考える』と題した次の内容の 講演をいただきました。

『SDGs とは、2030年までに経済・社会・環境面での様々なニーズを同時に満たす広い意味で「ゆたかになる」(持続可能な世界の実現) ために掲げた目標』

『ESD とは、生涯にわたって学び続ける持続可能な世界の担い手を育むこと』

最後に会場3グループ・オンライン4グループ に分かれ、①活動報告から共感したもの、②地域、 団体の課題をテーマにグループワークを行ってい ただき、全体会で以下の共有をしました。

- 企業からのお話を聞けて参考になった。
- 高齢化その他の理由で担い手が少なくなくなり、 子供たちを含めた世代・立場を超えた地域課題 の発見と解決策の共有等の伝え・つなげるしく みづくりが重要。

各グループの発表の後、石井さんから『企業・団体の活動にはそれぞれ何のために社会・地域に貢献するのかという目的がある。多様な人が集まり、交流し様々な共有をすることは、世代・立場を超えた"学びの場"になる。企業・団体の活動や目的を"学び"という観点で聞いてみると、自分の会社・団体の"学び"につながる。』というお話をいただきました。

以上でフォーラムは終了しました。今回の公開フォーラムを『ちば北拠点づくり』に向けたきっかけにしたいと思います。

(文責 川島謙治)



2022 年度

SDGs • ESD をひろげるための"ちば"拠点づくり事業

3年計画の2年目の事業概要は以下のようにな ります。是非多くの方にご参加・ご協力お願いし ます。

【主旨】「SDGs・ESDへの取り組みを多様な 主体と協働して、今後広げるために『県北』と『県 南』、それらをつなぐ『コア』と合わせて3か所 に「SDGs • ESD をひろげるための"ちば"拠点」 (拠点は、SDGs・ESD プラットホーム機能も併 せ持つ)を作る。※県北地域:千葉市以北西部 県南地域:市原市以南を想定

【拠点づくりの目的】持続可能な地域づくりを目 指すために、SDGs・ESD を理解し、関り、ひろ げることを通して、多様な人がつながる。人が集 まる場所。そのことが、環境保全、環境学習等な ど持続可能な社会をつくる人が育つ。そのための 拠点としての主な役割は、持続可能な人づくり。

【具体的な活動】

1:ひろげる場づくり

〇千葉県北地区 SDGs・ESD 拠点づくりのため の会議

- 事業企画・運営会議:3回/年(6月中旬 10 月中旬 3月中旬予定)
- 拠点づくり会議:5回(①7/3 ②8 月下旬 ③

10月下旬 ④1月下旬 ⑤3月中旬予定)

- SDGs・ESD を普及するための公開セミナー: 7/3 開催
- 拠点づくりの理解と協力者をつなぐ公開フォー ラム:1回
- ちば南拠点への支援会議(4回/年:4月、7月 11月、2月予定)

2:ひろげる人づくり

○千葉県内(主に県北部地区)で以下を開催

- SDGs ちばユース活動発表会:1回/年
- 学校との連携事業
- ESD プログラム体験会:4 回/年
- ESD 地域リーダーブラシュアップ実践研修会 :1 回/年
- ブラッシュアッププログラムのハンドブック作 成:通年

3: つながれ・ひろがれ(事業の広報)

• 事業広報 ・ニュースレター発行:4回/年

(文責:事業担当)

※この事業は、地球環境基金の 助成を受け実施しています



SDGs • ESD をひろげるための"ちば"拠点づくり事業 報告 第1回拠点づくり会議開催しました

「SDGs・ESD 公開フォーラム」終了後、第 1回拠点づくりを開催しました。

日時:7月3日(日)16:45~18:00 場所:さわやかちば県民プラザ、Zoom

参加者: 28名(会場:16名、Zoom:12名) ファシリテーター:石井雅章氏 神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部 教授

主催:NPO 法人環境パートナーシップちば

会議時間は約1時間で、主に自己紹介で終 わりました。活動での課題については、会議 前に開催の公開フォーラムからの意見も参考 に、次回へとつないでいきます。

参加者の活動地域は、千葉市・香取市・大 網白里市,四街道市,印西市,柏市,船橋市, 松戸市・浦安市・いすみ市などです。

会議の内容は、右記の通りです。協議しな がら進めていきます。拠点づくりに関心ある 方は、info@kanpachiba.com へ是非お知ら せください。

(文責:桑波田 和子)

≪拠点づくり会議≫

第1回(7月3日):参加者の活動と課題を 知る

第2回(8月下旬):拠点づくりの意義

- どんな地域でありたいか、現状はどうか、 どんなアクションがありうるかを聴いて、 共有する
- なんのための拠点づくりなのか参加者の間 で共有する

第3回(10月下旬):ありたい地域を実現す るためのアイディアの検討・整理

第4回(2023年1月下旬):拠点の機能、

運用方法の検討・整理

第5回(2023年3月中旬):拠点設置

SDGs • ESD をひろげるための"ちば"拠点づくり事業

報告 第1回企画•運営会議

日時:2022年7月6日(水)16:00~17:30

場所:千葉市生涯学習センター研修室3・オンラ

イン

出席:12名 [会場:5名 オンライン:7名] 内容 ちば拠点づくり事業を展開していく中で、 より具体的に見える活動を進めていくのが、企 画・運営会議です。

2021 年度の事業を継続し、2022 年度発展していくために、9 つのチームごとに協議、検討しています。

但し現実は、各自の多忙な活動にこのチームの活動も加わるので、ハイスピードで展開しているチームや、ゆっくり動いているのが現状です。

ただ、目標が定まると、力を出し合える、頼も しいチームです。第 1 回の会議では、下記の 9 つ のチームの進捗状況、これからの活動について話 し合いました。 ≪2022 年度チーム≫

- ①SDGs ちばユース活動発表会
- ②学校との連携事業
- ③ESD プログラム公開体験会
- ④ESD 地域リーダーブラッシュアップ研修会
- ⑤公開フォーラム・セミナー開催(SDGs・ESD 理解促進)
- ⑥ちば拠点の HP の検討
- ⑦SDGs ESD 実践プログラム集(ハンドブック)(仮)作成
- ⑧北拠点づくり会議

主に、千葉北拠点の地域性も意識しながら、活動を展開します。今後の会議は、第2回(10月中旬)、3回(3月中旬)を予定し、その間は、各チーム内での活動となります。

(文責:桑波田 和子)

夏休みユースボランティア体験 受け入れ団体募集の報告

昨年に引き続き夏休みユースボランティア体験 受け入れ団体の募集をお願いしました。その結果 8団体から延べ 17 日間のボランティア体験の提 案があり、参加者の募集を県内高校、大学に向け て7月初旬から開始させていただきました。

昨年の団体にも継続して提案いただき、また昨年の参加者の学生が受け入れ団体として提案があったことは、嬉しいことで今後に期待していますし、他の団体さんにもご協力に応えていけるよう

にしたいと、進めていきます。

この募集を通して、団体がユースの力を期待していることがよくわかりましたが、それがまだ充分にユースに届いていないこともあり、さらに広報に力を入れて行きます。

QR コードを読み取ると、ボランティアの詳細と申し込みができるようになっていますので、高校生年代からの若者にお伝えください。

以下は、受け入れ団体と活動の概要です。

いすみライフスタイル研究所	リバークリーン、オーガニック農
	園
亀成川を愛する会	水路掘り、田んぼづくり、草刈
	り、バイオマス集積場つくり
岩井駅前交流拠点 boccs	海ゴミ問題からアクションづくり
プロデザインスタジオ&愛の	GOGOボランティア~ゴミ拾い&
教会	プラスチックごみアート
浦安三番瀬を大切にする会	海岸清掃とプラスチック絵の具
	作り
シェア里山「ヤマナハウス」	古民家の改修や畑づくり
学生団体 おりがみ	幕張の浜ビーチクリーン
酒々井町大室台小学校地域	ビオトープ整備作業
学校協働本部	



7月23日には、暑さの中のボランティア 体験が始まりました。

(いすみライフスタイル研究所)

小学校での生ごみリサイクル教室(6月6日 真砂東小学校4年生) NPO 法人ビオスの会 中村明子

ビオスの会では2008年から、千葉市内の小学 4年生を対象に生ごみリサイクル教室(出前授業) を行っています。今までは、学年一斉授業のスタ イルで、2回の授業時間をもらっていました。初 夏に1回目、生ごみリサイクルの説明と、給食室 からでる野菜くずを毎日投入し混ぜる手ほどきを し、実際に生ごみの投入を約一か月、夏休みまで 続けてもらいます。夏休み中は熟成させ、秋に2 回目、生ごみはすっかりと消え、芳醇な香りのす るさらさらの物に変わっていることを観察しても らいます。そして、微生物の話をし、子どもたち からの質問などにも答える、というものでした。

しかし今年度は新型コロナの感染対策の為、1 クラスごとに1時間(45分)の授業でという依 頼だったので、プログラムを練り直すところから 始めました。

ビオスの会のメンバーは、生ごみリサイクルの スペシャリストであり、ヘビーな愛好家たちです。 伝えたいことがたくさんありますが、限られた時 間、スペース、材料となるとかなりの苦戦を強い られました。千葉市の家庭ごみの状況を円グラフ で紹介しながら可燃ごみの中には生ごみが一番多 いこと、生ごみを減らす目的、生ごみリサイクル と森の循環、微生物の話、使用中のコンポスター と実験装置の紹介です。 最後に SDGs と5つのP のポスターも紹介し、人間、豊かさ、地球、平和、 パートナーシップが柱で、「豊かさ」の対象は"人 の心と身体"であって"お金やモノ"ではないこ とを強調し、一人一人が日常生活でできることを、 少しずつでも実行していってほしい、と締めくく りました。

実際のたい肥に触れ、森の匂いに近いことを実 感した子どもたちの表情は、とても生き生きとし ていました。



IVUSA のナガエ駆除練習会に参加して

IVUSA (NPO 法人国際ボランティア学生協会) が「印旛沼クリーン大作戦」(印旛沼に異常に繁茂 している外来水生植物ナガエツルノゲイトウ(以 下、ナガエ)の駆除活動)を再開します。

この活動は台風やコロナのために3年間のブラ ンクができてしまったので、事前にナガエ除去作 業を体験して、手順や装備品などを確認するため の練習会開催です。

経験者がいないというのは、IVUSA だけではな く人事異動がある「大人たち」にとっても同じで、 貴重な練習の場になりました。

作業場所は印旛沼かっぱ公園わきの低地排水路 です。当日は薄曇りの作業しやすいお天気で、 IVUSA 14 名、大人 30 名が集まり、簡単なセレ モニーに引き続きさっそく作業開始です。

ここで、IVUSA と大人たちでちょっとした差が 生じました。IVUSA の多くはまず胴長が初体験で、 にぎやかに、苦労しながら身に着けています。そ の間に、おとなはどんどん作業を始めていきまし た。ブルーシートを敷き詰めて周囲をペグで固定 し、水の中に入って行って、ナガエ群落の塊を手 ノコで切り取って、ブルーシートの上に運びあげ ます。大人たちも、なんだかとても楽しそうに泥

だらけになってお手本を示してくれました。そこ に準備ができた IVUSA たちがどんどん加わって、 やり方を教わりながら作業を始めました。

あっという間に予定された時間が終了し、ブ ルーシート上にはナガエの大きな山が2つできま した。

昼食は、土地改良区の高橋さんが農家さんなど から集めてくださった新鮮な食材でのビュッフ ェ・スタイルでした。山のようなご馳走があっと いう間になくなり、心地よい疲れと満腹感で、練 習会は終わりました。 (文責:小倉 久子)



県内の環境保全活動人(団体)紹介 — 64 — おききしました! この人・この団体

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 鬼沢 良子

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット (以下、元気ネット)は、全国各地でリサイクル が行われ始めた1996年に市民団体として発足し ました。2003年に本部を新宿に、千葉支部を柏 に NPO 登録し、廃棄物をテーマに『市民・事業 者・行政のパートナーシップで持続可能な社会づ くりをめざし』活動をしています。

2001 年からは、地域活動を応援する表彰事業「市民が創る環境のまち"元気大賞"」を 12 年間実施し、全国から 600 件を超える活動の応募をいただき、そのつながりは今も他の活動で活きています。表彰の翌年には、受賞地域へエコツアーで訪れ、北は帯広、南は伊万里、与論島など、全国各地の地域の方々との学び合いを実施してきました。

大賞を受賞した生ごみたい肥化の伊万里はちがめプランと佐賀大学農学部、元気ネットで、2005年に国際協力銀行のタイ王国地域環境活動調査を1年間行うことができ、秋にはタイから6名の方を招聘し、日本での研修と最後は毎年恒例のエコツアーにも参加していただきました。水の豊かな長野県大町市を訪問し、農業用水を活用したミニ水力発電や木炭バス、地域の皆さんとの交流など大町の魅力を満喫しました。国際NGOタイ環境研究所と共にバンコク周辺地域の訪問とヒヤリング、最後は、各地から活動団体が参加したネットワークづくりワークショップなど、3回のタイ訪問と日本各地での研修は、私にとって大変大きな学びと経験になりました。

2007年から 10年間は、資源エネルギー庁の草の根広報事業を全国各地で実施しました。ワークショップ「共に語ろう電気のごみ~もう、無関心ではいられない~」の開催は何と 100回になり、この事業でも各地の方々との多くの出会いがありました。

現在、北海道の2か所で文献調査が行われている「高レベル放射性廃棄物の地層処分」を自分事として考えるためのもので、この事業実施中の2011年に東日本大震災がありました。国内のど

こかに処分施設を建設しなければならず、私たち世代の責任として今後の行方にとても関心があります。

ここ 10 年の主な活動のひとつに、「3R市民リーダー育成事業」があります。首都圏近隣の自治体と連携して、地域で活躍している方々に最新の情報を知っていただき、情報伝達の担い手になっていただくための人材育成事業です。特に関心のない方にも楽しく学んでいただくプログラム開発から始まり、容器包装の8素材がリサイクルされて何に生まれ変わるかを知る「3Rクイズ de ビンゴ」は毎回大好評です。

この2年間はコロナ禍によりイベントが開催されず、オンライン開催になりましたが、動画作成による出展や市民リーダーのスキルアップ研修などオンラインによる新しい試みもできました。この事業では、企業、自治体、市民という元気ネット発足時のミッションである連携協働を体現でき、予想以上に相乗効果があったと認識しています。

連携協働の成果には、2013年度~2015年度に実施した「連携で協創する地域循環圏めざして~個別リサイクル法見直しに向けたマルチステークホルダー会議」があり、現在はリチウムイオン電池の発煙発火トラブル防止をテーマに、日本容器包装リサイクル協会と連携して会合を開催しています。



パサク川流域連携が進む地域訪問

運営会議報告



6月9日(木)20:00~22:00

会場:オンライン(Zoom)

【報告】

- ・2022年度第5回通常総会終了 議案は承認
- •「地球環境基金交付申請書」提出(5/16)
- •「印旛沼シンポジウム」企画運営委託請負書提出
- だより 145 号、ニュースレター、公開フォーラム、ボランティア受け入れ団体募集の発送
- その他

【協議】

- ・だより 146 号構成
- 7/3 (土) SDGs/ESD 公開フォーラム
- R4 年度印旛沼環境基金助成金募集開始
- ・エコメッセ 2022in ちば出展について 他

7月度運営会議

7月14日(木)20:00~21:30

会場:オンライン(Zoom)

【報告】

- ・いちはら環境フェスタ実行委員会 6/28
- SDGs・ESD 公開フォーラム 7/3
- ・第1回拠点づくり会議 7/3
- 第1回企画・運営会議 7/6
- ・「印旛沼シンポジウム」進捗
- 第 2 回南拠点会議 7/12.
- ・ 高橋晴雄氏ご逝去

【協議】

- だより 146 号進捗
- ・夏休み親子印旛沼環境教室 7/25⇒8/24 に延期
- エコメッセ 2022in ちば出展
- 会員交流会 9/8 11/末 2/初
- ・千葉市公民館講座 7/27, 28, 8/2, 3, 4

お知らせ

「会員交流会」

日時 9月8日 (木) 20:00~21:30 オンライン

会員2名の方から活動のお話をしていただき、その後ゆるやかな交流の場をもちます。

- 1) 斎藤清さん(三番瀬ミュージアム) より 東京湾の三番瀬の魅力
- 2) 萩原耕作さん(酒々井で里山保全 等)より 果物の生産地(者)の課題

申し込み受付開始は、8月6日から。 entry@kanpachiba.com に 件名を「会員交流参加」として 氏名を添えてお申込みください。

夏休み親子印旛沼環境教室

日時 8月24日 (水) 9:00~12:15 集合場所: 佐倉ふるさと広場 佐蘭花

(佐倉市臼井田 2714)

対象・定員:小学生と保護者6組(12名)

(応募者多数の場合は抽選)

参加費:1組1000円(保険料、資料代を含む)

持ち物:飲み物、防止、筆記用具 服装:汚れても良い、動きやすい服装

内容:船に乗って印旛沼を見学、水質検査体験

水草・プランクトンの観察 印旛沼ワークショップ

申込み:8月25日までに、下記①~⑤を明記の上、

info@kanpachiba.com に申し込み

①参加者氏名 ②お子さんの学年 ③住所

④電話番号(当日連絡可能)⑤メールアドレス

問合せ:090-8116-4633

info@kanpachiba.com

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局:〒262-0006 千葉市花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail: info@kanpachiba.com

ホームページ: https://kanpachiba.com/

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HPでご確認ください。